

ハンドマイク街頭演説原稿例

ウクライナ危機・原発ゼロ

二〇二二年三月十一日 日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間、ご協力をお願いいたします。

みなさん、ロシアによるウクライナ侵略が長期化し、病院や学校などへの爆撃で民間人の死傷者が増え続けています。一刻も早くロシアは軍事行動を停止し、ウクライナから撤退すべきです。日本政府には、防弾チョッキなど防衛装備品の提供ではなく、非軍事の食料・医療支援、難民支援など人道支援に全力を挙げることを強く求めます。

今回の軍事進攻は、独立国・ウクライナの主権・領土を武力で侵し、国連憲章のルールに違反することは明らかです。プーチン大統領がどんな理由をつけても、決して許されるものでありません。国連総会でも、ロシアの侵略を国連憲章違反だと断じ、軍事行動の中止を求める決議が141カ国という圧倒的多数で採択されました。非常に画期的な、国際社会による断罪です。欧米でも、日本でも「戦争反対」の声が広がり、ロシア国民も決死の覚悟で反戦の声をあげています。ロシアへの効果的な経済政策の強化は必要ですが、何よりも世界中で反戦の声を広げ、「国連憲章を守れ」の国際世論でロシアを包囲し、孤立させていくこそが侵略をやめさせる一番の力です。日本共産党は、政府に対し、国連決議に棄権・退席した47カ国に対し、侵略を非難し、軍事行動の中止を求める立場に立つよう外交努力を強めることを強く求めます。

みなさん、今回のウクライナ危機に乗じて、自民党や維新の会、国民民主党は「国連は無力だ」「9条では日本を守れない」などと主張し、「核共有の議論」や「敵基地攻撃能力の保有」など軍事強化を求める動きを強めています。「非核三原則」を国是として平和国家として復興してきた、戦後の歩みを否定するともんでも動きであり、絶対に許すわけにはいきません。この議論の行きつく先はどこか。まさに、第二次大戦前の軍事的な「力の論理」がまかり通る国際社会への逆戻りであります。さらに、日本が「力の論理」でアジアの軍事的緊張に向き合えば、日本がロシアと同じ侵略国の立場におちいるのではないでしょう。憲法9条を変え、自衛隊を明記すれば、まさにフリーハンドで海外での軍事行動を進めることが可能です。日本共産党は、軍事対軍事の対応ではなく、いまこそ9条を生かした平和外交でアジアの平和の枠組みづくりを進めていくことを提案し、その実現に全力を尽くします。みなさんのご支援をよろしく願います。

みなさん、東日本大震災・原発事故から11年がたちました。今もなお、3万8千人余りが故郷を離れ、避難生活を続けています。ウクライナ危機でも、ロシアによる原発への攻撃が世界中を震撼させました。人類と原発は共存できないことはもはや明らかです。日本共産党は、引き続き被災者への生活支援、被災地の復興に力をつくし、原発ゼロの日本の実現へがんばります。

最後になりますが、気候危機、ジェンダー平等など多彩な記事満載の「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたします。この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございます。(了)